



＜明治29年水害後の前御勅使川＞左岸側を守る野牛島の堤防を地域の人々が修築している

これまでの山梨県における近代の水害の中で唯一、信玄堤を破堤させ、甲府盆地中央部に甚大な被害をもたらした明治29年の豪雨。下高砂出身の穴水朝次郎は、この水害に際して水防に尽力し、その後も治水に奔走した人物です。

穴水朝次郎の足跡を手がかりに、信玄堤の真の姿と最新研究、知られざる明治29年の大水害の実態、それを教訓として現代の防災へとつなげる先端技術について、治水考古学の第一人者、水害防災の専門家、文化財保護の担当者の3名が、わかりやすく解説します。

南アルプス市ふるさと人物室 第15回「治－おさめる－穴水朝次郎」シンポジウム

信玄堤最新研究と 明治29年大水害に学ぶ現代の防災

シンポジスト

かずあき
大槻 順朗 氏

(山梨大学大学院総合研究部附属
地域防災・マネジメント研究センター
准教授)

畑 大介 氏

(山梨文化財研究所 上席研究員)

コーディネーター

斎藤 秀樹 氏

(南アルプス市教育委員会文化財課)



＜現代の信玄堤周辺の風景＞

日時 令和8年7月4日(土) 午後1時30分～3時【午後1時開場】
場所 楡形生涯学習センター あやめホール
申込み 市内各図書館に来館または電話で受付
問い合わせ **南アルプス市立中央図書館**
南アルプス市小笠原1060-1
055-280-3300(代表)

